

忠和地区防災計画

1 目的

近年、地球規模での気候変動から、全国各地で台風や豪雨、豪雪による災害が発生している。これまで旭川市では、大きな地震が発生しなかったことや、全国と比較して台風による被害が少ないという地理的特性から、「旭川市は災害が少ないまち」という認識を持っている市民も多い。しかし、天災地変は何時どこでも起こり得るものであり、日頃からの「備え」が重要である。

大きな災害が発生した場合、まず個人の取組が不可欠であるが、個の方では限界がある。また、行政の支援にも限りがある。このことから、災害による被害を最小限に抑制するためには、地域住民の連携・協力による組織的行動が不可欠である。

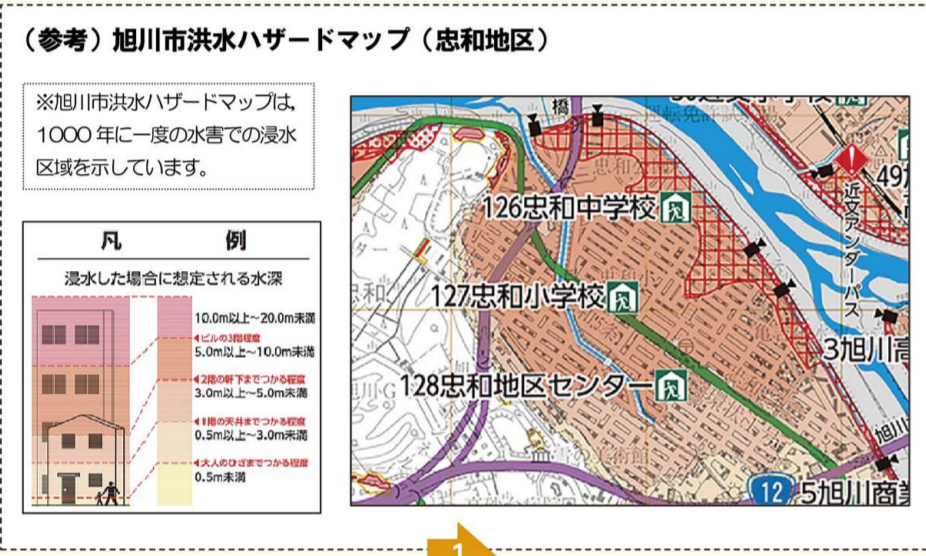
本計画は、忠和地区の住民等による自発的な防災活動に関する事項を定め、計画に基づく防災活動を実施することで、安全で安心して暮らすことができる忠和地区の地域づくりを目指すものである。

令和5年3月 忠和地区防災会議

《基本方針》

次代へつなぐ 安心・安全の絆

～忠和地区 逃げ遅れ「ゼロ」を目指して～



1

2 地区の特性

忠和地区は、市街地の中で最も標高が低く、旭川市内を流れる4大河川(石狩川、美瑛川、忠別川、牛朱別川)が合流する地域に位置している。これまでも幾度となく水害に見舞われてきた地区であり、神居川の改修や神居川水門の整備をはじめ、石狩川の樋門・樋管、神居川排水ビッドの設置など、治水施設の整備が進んでいる。

また、神居町忠和にある旭川下水道処理センターは、鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、東川町からも委託運営されており、1市5町の下水管が忠和地区を経由して、旭川下水道処理センターに繋がっている。そのため、石狩川や神居川の氾濫危険はもとより、下水管・雨水管の汚水氾濫の危険を考慮した防災対策を講じていく必要がある。

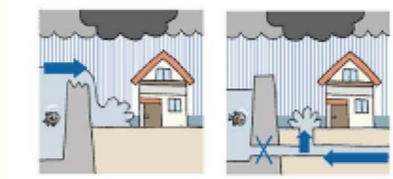
また、神居町忠和(旧東海大旭川キャンパス跡地)及び南が丘側は、土砂災害警戒区域に指定されている区域がある。

市内の他地区と比較して降雪量が多く、信号が見えなくなるほどの吹雪や道路脇の雪山により、交差点での交通事故の危険がある。

令和4年11月現在の忠和地区の人口は10,978人、世帯数は6,091世帯となっている。また、高齢化率は38.4%と、市全体の34.9%を上回っており、避難行動要支援者の人数は227人となっている。防災体制の構築に向け、昼間人口の高齢化等も大きな課題であり、将来の地域防災力の低下が懸念される。

(1) 過去の災害歴

外水氾濫と内水氾濫



※ 外水氾濫 大雨等により河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破壊するなどして浸水すること。
内水氾濫 大雨等により下水道や路などから水が溢れ、浸水すること。

(2) 今後の災害想定

住民の生活圏の標高が石狩川の水位より低い区域もあり、浸水の危険性が高い。ゲリラ豪雨や暴風雨による洪水の危険性が高く、石狩川や美瑛川の堤防が決壊した場合、5m以上の浸水が想定される区域もある。

指定避難所である忠和小学校、忠和中学校、忠和地区センターをはじめ、地区の複数の箇所でも浸水域となる箇所が存在する。

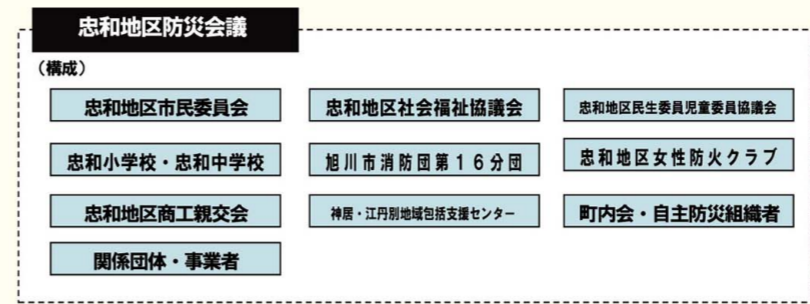
土砂災害警戒区域が存在し、土砂災害の危険が高いほか、木造住宅が密集しているため、地震時には火災発生も懸念される。

また、雪害、大規模停電(ブラックアウト)による都市機能の停止等が想定される。

2

3 平常時の活動

(1) 組織体制



(2) 防災知識の普及・啓発

忠和地区防災会議及び構成団体は、お互いに協力しながら各種研修会を通して、必要な防災知識の普及や啓発活動を企画・実施するものとする。

(3) 地域の災害危険箇所の把握

忠和地区防災会議及び構成団体は、浸水・土砂災害の危険性が高い区域や古い家屋が密集している区域、狭い道路など、災害の危険性が高い箇所を事前に把握し、地区住民に周知する。

(4) 防災訓練

地区防災会議及び構成団体は、お互いに協力しながら各種実践的訓練を企画・実施するものとする。

A 忠和地区防災会議が実施する防災訓練
避難訓練[※]、避難所運営訓練、情報伝達訓練 他
(※旭川地区バス協会との連携訓練含む。)

イ 自主防災組織や町内会、学校、忠和地区防災委員会等が実施する防災訓練
避難訓練、消火訓練、情報伝達訓練 他

(5) 避難環境の整備

地区、町内会、家庭ごとに災害時に避難する施設や場所、避難経路[※]を事前に決めておくよう努めることとする。安全な親戚・知人宅、ホテル等への避難も検討する。(※防災マップを参照し、危険箇所を避ける。)

A 避難場所

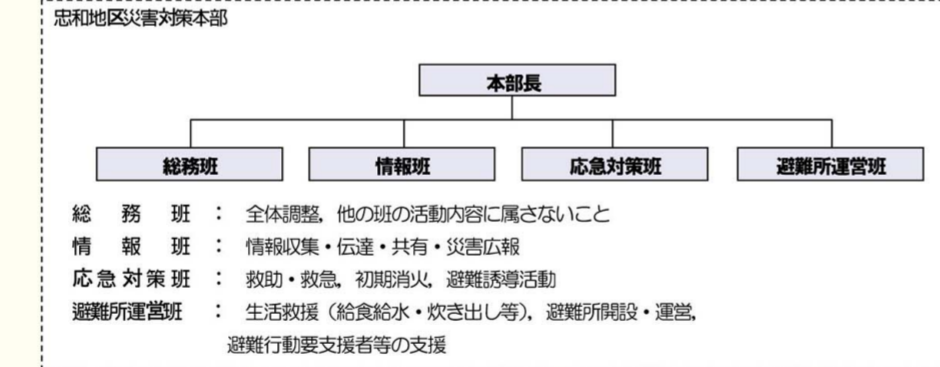
忠和地区及び近隣の避難場所は次のとおりである。

施設名	所在地	洪水時	地震時
忠和公園	神居町忠和	×	○
かねい中央公園	神居2条7丁目	×	○
はず池公園	神居9条6丁目から神居町神岡	○	○
神居東公園	神居4条2丁目	×	○

3

4 災害時の活動

(1) 災害体制(組織と役割分担)



A 忠和地区災害対策本部

忠和地区防災会議会長は、必要に応じ、忠和地区センター内に会長を本部長とする「忠和地区災害対策本部」を設置し、本部員として必要と認める者を招集する。忠和地区災害対策本部を設置した旨を旭川市防災課に連絡する。

イ 自主防災組織(町内会)

忠和地区の各自主防災組織(町内会)は、各自主防災組織(町内会)が定める計画等に基づき、担当区域の住民の安全を確保する。

ウ 学校・施設・事業者等

忠和地区の各学校・施設・事業者等は、各自が定める避難確保計画等に基づき、児童生徒や利用者、従業員等の安全を確保する。

(2) 情報収集・伝達・共有・災害広報

忠和地区の被災状況等を正確かつ迅速に把握し、適切な応急措置を行う又は必要な支援を受けするため、情報の収集・伝達を次のとおり行う。

A 忠和地区災害対策本部

忠和地区災害対策本部は、忠和地区の被害状況や避難状況についての情報を集約し、防災関係機関に伝達する。緊急対応が必要な場合は、直ちに出勤を要請する。

イ 自主防災組織(町内会)

忠和地区の各自主防災組織(町内会)は、担当する区域の被害状況や避難状況について、忠和地区災害対策本部に報告するとともに、必要と認める情報を住民に伝達する。緊急対応が必要な場合は、直ちに出勤を要請する。

ウ 学校・施設・事業者等

忠和地区の各学校・施設・事業者等は、被害状況や避難状況について、忠和地区災害対策本部に報告するとともに、必要と認める情報を、児童生徒や利用者、従業員に伝達する。緊急対応が必要な場合は、直ちに出勤を要請する。

6

(3) 救助・救急、初期消火

A 救助・救急
建物の倒壊、落下物等により救出、救護を必要とする者が生じた場合は、直ちに救出・救護活動を行う。負傷者が医師の手当を要するものと認められた時は、医療機関又は防災機関が設置する応急救護所に搬送する。

イ 初期消火
火災が発生した場合は、各家庭や事業所、施設等の消火器や水バケツ、自主防災資機材等を用いて、初期消火を行うとともに、直ちに消防機関に通報する。

(4) 避難誘導活動

避難情報(高齢者等避難、避難指示)が発令された時は、自主防災組織(町内会)や学校、施設、事業所等は、それぞれの避難計画に基づき、開設されている避難所や避難場所等[※]への避難誘導を行うものとする。

危険を感じた場合は、避難指示等が発令される前でも、自主的に避難活動を開始する。
※ 危険レベル2以下の内水氾濫の場合は、2階への垂直避難も可能



(5) 生活救援(給食給水・炊き出し等)

忠和地区災害対策本部は、自主防災組織(町内会)や学校、施設、事業所等と協力して、市から供給された支援物資や地域内の住民等から提供を受けた食糧等の配分、給食給水、炊き出し等を行う。

(6) 避難所開設・運営

忠和地区災害対策本部は、旭川市や自主防災組織(町内会)、学校、施設、事業所、災害ボランティア等と協力して、避難所の開設運営を行うものとする。

7

イ 避難所

忠和地区及び近隣の避難所は次のとおりである。

施設名	所在地	電話番号	浸水深(前)	洪水時	地震時
忠和小学校	忠和4条4丁目	62-2923	6.09	×	○
忠和中学校	忠和1条4丁目	61-5300	5.40	×	○
忠和地区センター	忠和5条5丁目	63-3854	4.94	×	○
神居小学校	神居4条6丁目	61-7488	1.39	2階○	○
神居中学校	神居4条5丁目	61-7261	1.10	2階○	○
神居東小学校	神居1条17丁目	62-2932	1.89	2階○	○
神居東中学校	神居4条19丁目	61-8298	1.15	2階○	○
神居住民センター	神居2条17丁目	61-9073	1.89	2階○	○
台場小学校	神居町台場	61-4405	-	○	○
富沢小学校	神居町富沢	62-6207	-	○	○
万葉の湯	高砂台1丁目	62-8910	-	○	○

ウ まるごとまちごとハザードマップ(洪水時避難所誘導表示版)

忠和地区に設置されている洪水時避難所誘導表示版

【参考】防災ハンドブック(忠和地区防災委員会)

(6) 備蓄

忠和地区及び近隣の公的備蓄は、次のとおりである。
また、住民自らも家庭での備蓄品(非常食、飲料水、防災グッズなど)を備えるよう努めるものとする。
《公的備蓄》

施設名	主な備蓄品
忠和小学校	毛布20、防災マット25、寝袋20、やかん2、大鍋2、石油ストーブ2、灯油タンク10、発電機2、携行缶2、コードリール3、投光器2、カセットコンロ2
忠和中学校	コークストープ3、コークス45、やかん2、大鍋2、生活用水資機材1、発電機1、携行缶1、コードリール2、投光器2
忠和地区センター	アルファ化米50、野菜ジュース30、毛布50
神居小学校	毛布20、防災マット25、寝袋20、コークストープ3、コークス45、やかん2、大鍋2、生活用水資機材1、発電機1、携行缶1、コードリール2、投光器2
神居中学校	-
神居東小学校	やかん2、大鍋2、石油ストーブ2、灯油タンク10、発電機2、携行缶2、コードリール3、投光器2、カセットコンロ2
神居東中学校	アルファ化米1,400、クラッカー1,260、野菜ジュース240、毛布300、防災マット500、寝袋500、大型救急箱2、トイレトペーパー48
神居住民センター	アルファ化米50、野菜ジュース30、毛布50
台場小学校	毛布50、防災マット50、寝袋20、やかん2、大鍋2、石油ストーブ2、灯油タンク10、発電機2、携行缶2、コードリール3、投光器2、カセットコンロ2
富沢小学校	コークストープ3、コークス45、やかん2、大鍋2、生活用水資機材1、発電機1、携行缶1、コードリール2、投光器2

4

神居地区等の他地区に避難所を開設した場合は、他地区の防災組織と協力して避難所の運営を行うものとする。
【参考】避難所開設・運営マニュアル(旭川市HP)

(7) 避難行動要支援者等の支援

避難支援者は、個別避難計画に基づき避難行動要支援者の避難支援を行うとともに、旭川市や自主防災組織(町内会)、学校、施設、事業所、災害ボランティア等と連携して、避難生活の支援を行うものとする。
必要に応じて、市が開設する福祉避難所への二次避難を検討する。

警戒レベル 避難情報等	状況	住民がとるべき行動	避難支援者の行動例
警戒レベル5 緊急安全確保	災害の発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保	命を守る 最善の行動
警戒レベル4 避難指示	災害のおそれが高い	危険な場所から 全員避難	自ら避難する
警戒レベル3 高齢者等避難	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者は避難	一緒に避難する 車に乗せて避難
警戒レベル2 大雨・洪水注意報	気象状況悪化	避難行動を確認	避難支援の準備
警戒レベル1 早期注意情報	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを 高める	知らせる 訪問する

5 風水害・土砂災害・地震・雪害への対応

忠和地区防災会議や自主防災組織(町内会)、学校、施設、事業所等は、忠和地区において風水害や土砂災害、地震、雪害等の災害が発生した場合、本計画に基づき、忠和地区住民の生命、身体の保護に努めるものとする。
【参考】防災ハンドブック(忠和地区防災委員会)

6 災害復旧時の活動

忠和地区災害対策本部は、旭川市が行う災害復旧に自主防災組織(町内会)、学校、施設、事業所、災害ボランティア等と連携して協力するものとする。

7 計画の見直し

本計画の見直しに当たっては、忠和地区防災会議の審議に諮るものとし、見直し後は旭川市防災会議に、その内容を通知するものとする。

8



5

忠和地区防災マップ



火災・救急・救助
119番
事件・事故
110番
災害用伝言ダイヤル
171番

内容	問合せ先	電話番号
避難所・災害全般	防災安全部防災課	33-9969
道路冠水・崩壊	土木事業所 土木管理課	36-2244 / 25-5375
河川溢水・護岸崩壊	土木事業所 土木建設課	36-2244 / 25-9795
内水氾濫・水道水濁り	水道局管路管理課	24-3166
避難行動要支援者	福祉保険部福祉保険課	25-6425
	防災安全部防災課	33-9969
支所・窓口	神居支所	61-2311

内容	問合せ先	電話番号
停電	停電情報フリーコール	0120-165-597
	北電(株)道北統括支店	0120-06-0124
電話の不通、電話線破等	113センター	113
	携帯電話・PHS	0120-444-113
	ひかり電話・インターネット	0120-000-113
LPガス漏れ・ボンベ破損	北海道LPガス協会上川支部	46-3220
都市ガス漏れ	旭川ガス(株)	45-2800

凡例

- 土砂災害警戒区域
- 過去の災害で冠水した道路（住民聞き取り）
- 公衆電話
- 避難支援バス（洪水の危険性が高い場合に、市が避難支援を依頼するバス）
- 避難支援バスの走行経路
- 町内会境界
- 公園内トイレ